

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町
 JA会津よつば（あいづ地区）・福島県農業共済組合会津支所
 全国農業協同組合連合会福島県本部・福島県会津農林事務所



- ・いもち病の早期発見と予防防除を心がけましょう。
- ・斑点米カメムシ類はやや多い予想です。乳熟期の防除を基本としてください。
- ・高温対策を徹底し、収量と品質の向上を目指しましょう。

気象情報 ～高温となる見込みです～

東北地方1か月予報（8月6日～9月5日） <仙台管区气象台 R4.8.4発表>

<向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）> ○平年と同様晴れの日が多いでしょう。

【気温】 東北地方

○平均気温は高い確率が70%です。

【降水量】 東北日本海側

○降水量は平年並みか多い予報です。

【日照時間】 東北日本海側

○日照時間は平年並みか少ない予報です。

凡例: 低い 平年並み 高い(多い)

いもち病（穂いもち）防除 ～病斑の上位葉への伸展、穂への感染を防止しましょう！～

- ・ほ場では、特に下位葉をよく観察し病斑の早期発見に努めてください。
- ・葉いもちが確認されたら、早急に散布剤で防除を行ってください（表1）。
 - 水面施用剤は、使用時期を逃さず出穂前に施用してください（表2）。
 - 散布剤は、穂ばらみ末期と穂揃期（出穂3～5日後）の2回散布をしてください。
 - 穂いもちが多発する恐れがある場合は、傾穂期（出穂10～15日後）に追加防除を検討してください。



葉いもちの病斑

表1 いもち病（穂いもち）の防除薬剤（散布剤）

薬剤名	使用時期 （収穫前日数）	使用濃度、10aあたり使用量
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	3～4kg
フジワン乳剤	収穫14日前まで	1000倍（注）

（注）フジワン乳剤は、10aあたり140～150L散布する

表2 穂いもちの水面施用剤




薬剤名	使用時期 （収穫前日数）	10aあたり使用量
コラトップ粒剤5	穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	3～4kg

斑点米カメムシ類防除

～ほ場を観察し適期防除を！～

- ・6月上旬の低温により、出穂期にばらつきが生じる可能性があります。適期防除に努めましょう。
- ・「天のつぶ」等の割れ粳が発生しやすい品種では、斑点米被害を受けやすくなります。こうした品種では、出穂20日後頃の追加防除も検討しましょう。
- ・イネ科雑草だけでなく、カヤツリグサ科雑草（イヌホタルイ等）の除草管理も徹底してください。
- ・散布剤による防除は、乳熟期（出穂7～10日後）を基本とし、その後も発生がある場合は7日おきに追加防除を行ってください。
- ・水面施用剤は、穂揃い期～乳熟期（出穂5～10日後）に湛水状態で散布してください。
- ・稲が糊熟期となる8月下旬頃までは、畦畔の草刈りを控えるようにしてください。

表3 主要な斑点米カメムシ類の特徴と防除例

アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	ホソハリカメムシ
 大きさ：5mm程度	 大きさ：6mm程度	 大きさ：10mm程度
●キラップ粒剤（収穫14日前まで） ●キラップ粉剤DL（収穫14日前まで）		
●スタークル粒剤（収穫7日前まで） ●スタークル粉剤DL（収穫7日前まで） ●スタークル液剤10（収穫7日前まで）		

高温対策 ～水管理を中心に～

出穂期の高温はイネの栄養凋落を引き起こし、品質や収量を低下させる可能性があります。また、中干し時の好天により、葉色が極端に淡いほ場が散見されています。

【つなぎ肥の検討】

中干し後も葉色の回復が遅く、草丈が短い場合は、基肥一発肥料を使用しているにもかかわらず出穂前に窒素成分で1kg/10a程度のつなぎ肥を検討してください。

【水管理】

出穂後30日程度は、間断かんがいを行いましょう。

猛暑の場合は、飽水管理（田面が湿っており、溝や足跡などに水がある状態）を行い、地温の上昇を抑えることで根の活力維持を図り、白未熟粒の発生防止に努めてください。

- ・熱中症予防のため、こまめな休憩と水分補給を行ってください。
- ・農薬を使用する際は、ラベル等を必ず確認して適正な使用に努めましょう！
- ・収入保険や水稻共済といった農業保険を充分活用しましょう！